

■コーナー監修

古山登隆

FURUYAMA Nobutaka

医療法人社団喜美会

自由が丘クリニック理事長

Skill UP for Specialist

正しい施術とトラブル解決を学ぶ

医療法人社団喜美会
自由が丘クリニック院長

佐藤英明
SATO Hideaki

vol.7

目頭切開・目尻切開

眼を大きくしたいという主訴で来院する患者は少なくない。水平方向に瞼裂を拡大する方法として、内眼角形成術(目頭切開)と外眼角形成術(目尻切開)がある。垂直方向に腱膜前転術で瞼裂を拡大しても、水平方向が短ければ、眼が大きくなった印象は少ないものである。とくに内眼角贅皮(蒙古襞)は、東洋人に特徴的な形態であり、目が小さくみえる、目が離れてみえるなどの原因となる。本稿では蒙古襞の除去を行う目頭切開を中心に解説する。

適応の有無

- 蒙古襞が目立つために除去したい、目と目のあいだを狭くしたい、平行型の二重にしたいなどの希望に対しては、目頭切開が適応となる。成人では内眼角距離が37mm以上は適応がある。平行型の二重にしたいが、蒙古襞のために末広型の二重にしかならない場合でも内眼角距離が33mm以下の場合には、慎重に検討すべきである。
- 外眼角を外方に広げて瞼裂横径を延長したい、外眼角を下方に下げ垂れ目にしたいなどの希望に対しては目尻切開が適応となる。

人数(手術に必要な人員)

直接介助1名は最低限必要である。無影灯を使用する場合や、術中に起座位で確認する場合は間接介助1名が必要となる。

手術器具

デザインペン、局所麻酔用注射器、11番または15番メス、微小有鉤鑷子、持針器、キルナー剪刀、糸切り用剪刀、スキンフック、バイポーラー
※細かい操作となるため、ルーペなどを使用することにより操作性・安全性が高まる
※使用する糸は、手術内容により異なる

麻酔

- 局所麻酔(手術の内容によるが、通常はエピレナミン加1%リドカインで十分である。筆者は、20万倍ボスミン加0.375%アナペインを使用している)

体位

- 仰臥位(術中に座位での状態確認が可能なリクライニング機能のある手術台が望ましい)

目頭切開

目頭切開にはZ形成術(図1A)、W形成術、skin redraping法(図1B)など、複数ある。術式により実現できる内眼角の形態が異なるため、患者にはあらかじめ希望を確認しておく。なお、術式により瘢痕の位置が異なることから、瘢痕が目立ちにくい術式を選ぶことも重要である。また、涙丘の露出の程度によって目もとの印象は変わる。十分に露出させることも可能だが、部分的に隠す程度のほうが自然である。

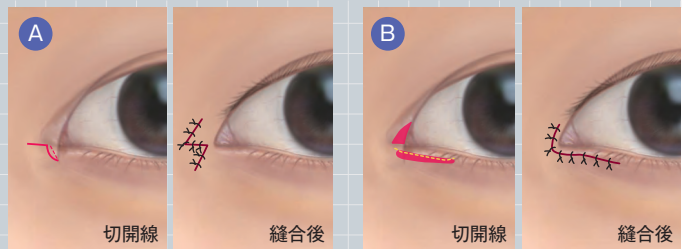


図1 目頭切開の術式

A: Z形成術, B: skin redraping法.

© SAIKOU

SAMPLE